



広々としたリハビリテーション室。VR機器など最新の設備を導入した

高橋病院移転、竣工式

リハビリ施設充実

函館市元町から時任町に移転し、10月1日に開院する高橋病院（高橋肇理事長、院長）の竣工式が14日、開かれた。関係者約40人が出席し、新し

い病院の完成を祝った。リハビリテーションの設備を充実させ、地域住民が集えるコミュニティスペースを設けたことが特徴だ。（松宮一郎）



新病院の敷地面積は約5300平方メートル。鉄筋コンクリート造り4階建てで、延べ床面積は約1万6700平方メートル。病床はこれまでと同じ119床、介護医療院60床。

1階は外来をはじめ、検査室やレントゲン室など。2階は回復期リハビリテーション病棟。3階は地域包括ケア病棟と介護医療院。4階は会議室や職員ラウンジなど。

リハビリテーション室にはVR（バーチャルリアリティ）機器など最新の設備を導入。患者のモチベーションを高め、訓練に役立てる狙いだ。また、1階のコミュニティスペースは地域住民が自由に利用できる。キッチンもあり、健康教室や料理教室などの催しを開けるようにした。

竣工式で高橋理事長は「新しい病院が完成し積年の夢がかなった。患者や家族が通いやすく、見舞いも竣工式で今後の抱負を述べる高橋理事長

しやすくなる」とあいさつ。「素晴らしい建物に心、魂を入れることが我々職員の使命。患者や家族の満足度、幸福度を高めていきたい」と力を込めた。式典後には内覧会が行われ、出席者が院内の新しい設備を見て回った。元町の跡地の活用は未定という。